

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 三陸大気球観測所開設10周年記念絵葉書セット収蔵

筆者は、国立天文台（東京天文台時代を含めて）でいろいろな仕事をしてきた。その中に大気球に観測装置をぶら下げて大気圏上層で大気の吸収の少ない観測実験をやっていた時代もあった。したがって表題の三陸大気球観測所にも何度か通ったのでこの絵葉書セットはぜひアーカイブ室の収蔵品に加えておきたい。この絵葉書セットは元国立天文台職員の入江誠氏から寄贈いただいたものである。筆者が参加した大気球搭載の観測実験の望遠鏡であった「BATⅡ」もこのセットのなかに入っているのではなおさらである。三陸大気球観測所は宇宙科学研究所の施設で、気球観測所は茨城県大洋村、福島県原町市等の実験場を経て昭和46年に岩手県三陸町に大気球観測所を設立している。写真1は三陸大気球観測所開設10周年記念の絵葉書セットの表紙である。

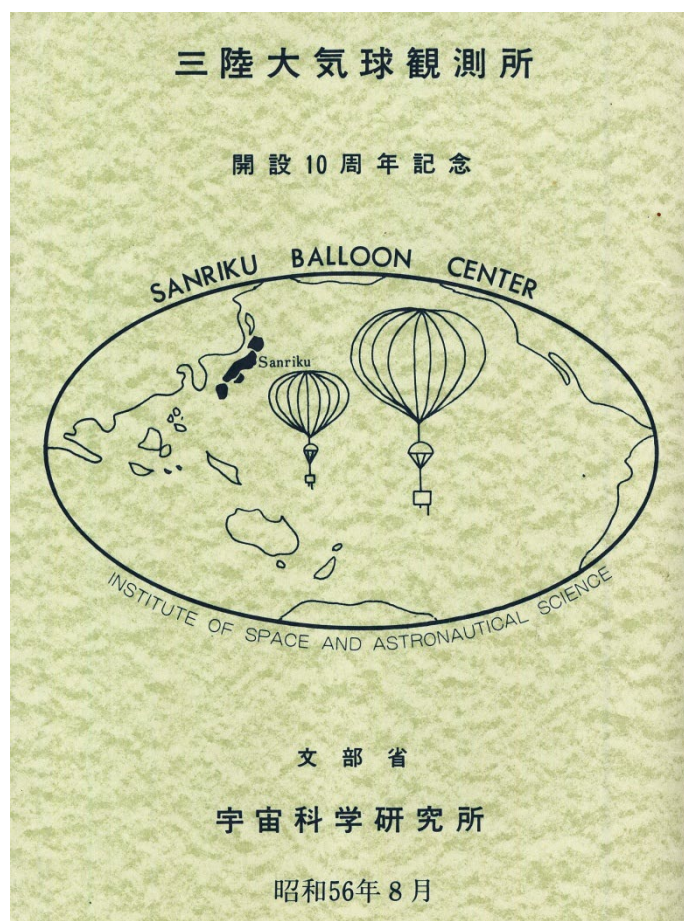


写真1 絵葉書セットの表紙

写真2は、筆者が参加した「BATⅡ」と名付けられた赤外線望遠鏡を搭載した気球望遠鏡である。この望遠鏡ではデータ取得はできなかったが、その制御技術はハワイに建設した

大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の制御へと継承されていったのである。



写真 2 気球搭載用赤外線望遠鏡「BAT II」

写真 3 は三陸大気球観測所の全景を望む写真である。



写真 3 三陸大気球観測所全景を望む写真

写真4は、気球にヘリウムガスを充填する場面から放球までの光景である。



写真4 左上はヘリウムガス充填中、右上は充填の最終段階
左下は放球の瞬間、右下は上昇中の観測気を吊下げた気球

写真5は、大気球観測移動車である。



写真5 大気球観測移動車

写真6はヘリウムガス充填中の光景、これ等絵葉書9枚がセットの記念品である。



写真6 ヘリウムガス充填光景